

イネミズゾウムシ

○ 被害と発生生態

成虫は、軟らかいイネの葉を葉脈に沿って幅1mm程度、長さ0.5～6cmの細長い線状に食害する。イネの被害は主に幼虫期の加害によるもので、土中に潜った幼虫による根部の食害がすすむと、分げつが抑制され茎数不足や欠株、生育遅延により収量に影響する。また、直播栽培では被害が出やすい。

雑木林等で越冬した成虫が3月下旬頃より移動し、飛来あるいは歩行により本田に侵入する。田植え直後の水田では畦畔沿いで成虫密度が高くなり食害が増加する。成虫の産卵数は水深が深いほど多くなり、イネが根腐れするような水田では被害がしやすい。

卵は主に水面上の葉鞘内に1粒ずつ産み付けられ、6～10日で孵化する。若齢幼虫は根に潜り込んで内部を食害するが、成長すると根を外部から食害する。幼虫は4齢を経過し、約1か月で土繭を作りその中で蛹となる。蛹化後5～7日で羽化し新成虫となり弱小分げつの葉身等を食害するが、7月下旬～8月中旬には越冬場所に移動し休眠する。

○ 防除法

(ア) 耕種・物理的防除法

- ・田植え時期を遅らせ、成虫の発生時期を回避する。
- ・一斉に植え付けることにより集中加害を防止する。
- ・深水を避け、根を健全に保つため浅水管理とする。

(イ) 薬剤防除

- ・箱施用剤により防除を行う。
- ・箱施用剤により防除を行わなかった水田で、成虫が1株当たり0.5頭以上いる場合は、田植え後10～15日頃に水面施用剤により防除する。



被害株



成虫



根の食害と土繭